

**1F 2,000 楽器と常設展示とメモリアルガーデン**  
 楽器はホワイエ下にひとつながりで設けることで、道員と演奏者の動線と明確に分け、ラウンジとともにホワイエ下の震災展示に近接して設けることで、展示観覧や舞台鑑賞など、異なる目的を持つ多様な人々の交流を促します。ホール未使用時は市民活動のために利用しやすい配置です。

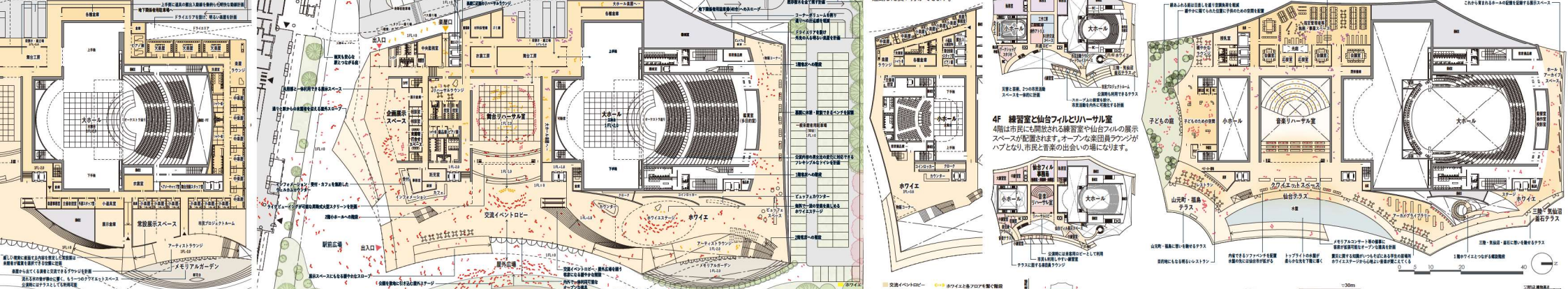
**1F 交流イベントロビーと大ホールとリハーサル室**  
 大ホールの出入口を単独で設けつつ中央にまとめた、荷物置きや倉庫、工房などの大きなモノが行き交う空間を集約し、搬入搬出や運営側、演奏者の移動距離も短く使いやすい構成とします。それは同時に大ホール、各種リハーサル室、工房等がまとまり、フロアを越えた交流が生まれやすい構成でもあります。

**2F 小ホール**  
 小ホールは市民が利用しやすい駅前配置し、ホワイエの賑わいがエントランスを演出します。2-3階に設けることで、ワークショップやスタジオや創作アトリエと連動した使い方ができます。

**3F 災害文化とワークショップ**  
 3階は災害文化と文化創造の場。ワークエをハブに市民研究活動とワークショップ等が配置され、柔軟な運用が可能です。

**4F 練習室と仙台フィルとリハーサル室**  
 4階は市民にも開放される練習室や仙台フィルの展示スペースが配置されます。オープンな楽団員ラウンジがハブとなり、市民と音楽の出会いの場になります。

**5F 日常の豊かさを包む大屋根「もやね広場」**  
 豊かな木造の大屋根に包まれた空間は、心地よい空間が広がっています。子供の遊び場、そこでは音楽が日常の時間を豊かにし、震災に関する明るいイラスト、静かな水盤の庭、居心地の良いライブ、音楽の聞こえる廊下、



**折り重なる形、繋がる形**  
 歴史の中であるふる川沿いの敷地に、地形のような、道のような建築を提案します。つづら折りに折り重ねられたボリュームがホール、ライブラリーとその他の建物を緩やかに繋ぎ、青葉城の石垣や緑あふれる自然と調和します。つづら折の面をよって、思い思いに人が音楽を楽しめるステージが現れ、最上層には市街地と宮城湾を望むテラスが現れます。反対にある建築の平面形は、周囲に広場や庭を作るだけでなく、東北の各所への輻射から導かれます。東北の各所への方向が暗示されたテラスの上で、人は東北の各所へ思い繋ぎたい。

**東北への軸、東北全体と繋がる**  
 東北への軸、東北全体と繋がる

**流れを受け止める形**  
 流れを受け止める形

**地形のような建築**  
 地形のような建築

**音楽と災害文化が連続する空間構成**  
 音楽と災害文化が連続する空間構成

**災害文化と音楽を重ねる文化の庇戸**  
 災害文化と音楽を重ねる文化の庇戸

**人と文化を育てる災害文化拠点**  
 人と文化を育てる災害文化拠点

**仙台の木屋根**  
 仙台の木屋根

**多様なプログラムが育つ音の風景**  
 多様なプログラムが育つ音の風景

**ホールの断面計画**  
 ホールの断面計画

**プロセニウム劇場とサウンド型コンサートホールを両立する大ホール**  
 プロセニウム劇場とサウンド型コンサートホールを両立する大ホール

